

http://scn-net.easymyweb.jp/member/takako_3/



所属会派：清風クラブ・団長
議会運営委員会委員長
都市建設常任委員会委員
平塚市病院運営審議会委員

いつも笑顔で やる気、根気、元気!

2019年4月21日施行、市議会議員選挙において3回目の当選をさせていただきました。

市民からのさまざまな相談が私の引き出しを増やしてくれました。政治にゴールはありません。どんなときも対話と議論を重ねて、決定の場を通して形にしていく事をしっかり努めてまいります。市民のみなさん、いつでも、お気軽に声を掛けてください。

8月29日から9月25日まで、9月市議会定例会が開催されました。質問時間30分の質疑応答の一部を抜粋してご報告します。ひらつか議会だより第212号・2019年11月1日発行と併せてご一読ください。

市長に問う、平成30年度決算について

本市の一般会計決算の歳入総額は853億9千万円となり、前年度に比べ0.8%の減少、歳出総額823億4千万円、前年度に比べ0.1%の減少となった。平成30年度の実質収支は26億9千万円となり、前年度比4億8千万円の減であった。「地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づく健全化判断比率、及び資金不足比率に関わる審査意見書」でも、本市の財政状況は健全な状態であると述べられている。しかしながら、財政の弾力性を示す経常収支比率は96.5%となり、前年度比2ポイント増加しており、財政の硬直化が引き続き懸念される場所である。

問 各財政指標から、本市の財政状況の特徴をどのように評価しているのか伺う。

市長 公債費などの財政負担の割合である実質公債費比率は、前年度から0.4ポイント減少の2.0%、将来負担すべき負債の財政負担の割合である将来負担比率も、前年度から4.2ポイント減少の23.2%とそれぞれ改善した。これは、主に下水道事業会計

などの企業債の償還が進んだことによるものである。そのほかの健全化判断比率においても、早期健全化基準をいずれも下回っており、本市の財政状況は健全な状態であると認識している。

一方で、財政構造の弾力性を示す経常収支比率は96.5%となり、財政の硬直化が進んでいる状況である。県内の指定都市を除く16市の決算の速報値では、他市も同様に上昇傾向となっており、本市はおおむね中位に位置している。今後も本市の状況を把握する上での指標としつつ、必要な施策や行政サービスとのバランスも見ながら財政健全化に努める。

問 病院事業会計決算では5年ぶりの黒字となった。これは本市からの長期借入金5億円を受けて黒字になっている状況だが、改築設計案策定から10年以上が経過し、今年3月のグランドオープンを契機に、今後、この黒字化を継続して行くことが非常に重要であると考えているので見解を伺う。

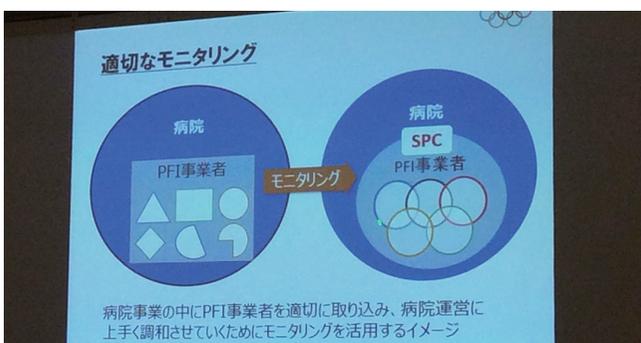
次ページに続く→

市長 医業収益が前年度と比べ11億5,900万余円増加し、過去最高となり、経常収支が5年ぶりに黒字となった。これは将来構想の方向性に基づき、高度医療、急性期医療及び政策的医療を担う病院としての取り組みを進めた結果であると考えている。併せて、年度ごとに行動計画を策定し、職員が全員で同じ目標に向かう仕組みが有効に機能していると評価している。

病院事業において健全経営を持続していくことは診療体制を維持し、市民に良質な医療を提供していくために必要であると考えている。病院経営は医療制度や消費税率の改定など外部環境の影響を受けやすく、また、良質な医療を維持するためには職員の増強や高額な医療機器の更新が求められることから、黒字を継続するには更なる努力が必要である。これまでの取り組みにより一定の成果が表れていることから、引き続き将来構想の実現に向けて、職員一丸となって経営の安定化を目指していく。

一問一答による再質問

問 本市の財政状況について、以前の議事録を閲覧したり、インターネットなどで他市との比較を見たりした。平塚市だけで見ると財政状況が厳しいという意見がある一方で、全国的にはかなり頑張っていることが見て取れた。市民によっては将来投資をもっと大きくして勝負をかければよいのではないかという意見もある。市長という立場であれば、いろいろな場でそのような意見を求められると思うが見解を伺う。



全国自治体病院経営都市議会協議会主催、第15回地域医療政策セミナー/11月1日(金)

公立病院の運営型PFI事業に取り組んでいる事例について発表されました。PFI方式とは、Private Finance Initiative、「民間資金等を活用した社会資本整備」のことで、民間企業が主導し、その資金調達、経営管理等のノウハウを活用する新たな社会資本整備手法です。(出典:コトバンク)

高齢化に伴う疾病構造の変化

	若年者	高齢者
原因	外因性	内因性(老化)
病質	単発	多発・複雑
発症パターン	急性	慢性・再発性

医療ニーズも変化する!

目的	救命・治療	予防・改善
役割	治療	ケア・サポート
場所	病院	地域
特徴	医療施設内集中治療	地域での支え合い

地域医療政策セミナー・第2部、都内の在宅医療専門医の方が、「健康寿命を過ぎたら、薬以上に必要なのは他者とのコミュニケーション」と力説されていました。

市長 将来の負担比率は下がってきてはいるが、今使うお金で、将来に負担をかけてはならないと考える。もう一つは、子育て世代を呼び込んだり、平塚の魅力化を図っていくことは、ただでさえ人口の自然減が進む時代の中で、平塚を選ばれるまち、住み続けるまちにするために必要である。しかし、出生率などから考えると、将来、平塚を担ってもらい、財政の基盤を担ってもらい人数自体がこれから増えていくことは難しいのではないかと考える。市債を借りて取り組まなければならないもの、より将来に向けて効果のあるものをしっかりと考え、行財政改革や財政運営にも取り組む、そういう考え方で進んでいかないといけない。今、余裕があるから使えばよいということは、私の立場としては将来に向けて無責任な対応になってしまうので、そういうところは十分に気を付けていきたいと考えている。

問 市民病院についてはNICUを設置し、子どもの誕生から成長に関してさまざま担っているところである。また、救急も受け入れているので、いろいろな方の人生の終わりにも求められるところが大きく、市民病院は急性期病院なので治療の見込みがなくなった患者に対しては転院などを促していかなくてはならない。さまざまな患者に、一人一人が焦らず寄り添うという姿勢が大切であり、そういった取り組みが市民病院のPRにもなると考える。これまでどのように取り組んできたのか、またこれからについて伺う。

市長 急変した場合や急に悪くなったときに、第一に市民病院に来てもらって、高度な医療で治療させてもらう。そこで治ればよいが、もしそのままもう少し違う治療やリハビリなどが必要であれば連携している病院に転院していただく。その際には入院時から市民病院の役割を伝え、退院に

ついて相談できる専門の職員をつけている。社会福祉士、精神保健福祉士などの資格を持った職員が患者に寄り添う形で、また看護師などとチームを組み、今後のことについても最初から相談に乗るという形をとっている。ここ何年かやっており、そういった効果が出てきている。現在の西部

医療圏の病院協会ではそういった全体でのネットワーク化、病床の連携をするといった試みをしており、個々の病院だけでなく、そういった病院と診療所、施設などと連携も図っている。患者に寄り添い、気持ちを考えながら、いろいろな形で退院などに向けての支援を続けていく状況である。

湘南海岸公園龍城ヶ丘ゾーン整備・管理運営事業

8月22日、公募設置等指針等がホームページ等で公表され、事業者選定に向けた公募が開始された。要求水準書では、平成30年2月に公表した龍城ヶ丘ゾーン公園整備事業にかかる市民アイデア・意見募集の結果、及び令和元年8月に公表した市民アイデア集を参考とした提案とする旨の記載があり、市民のアイデアや意見を取り入れようと努めている本市の姿勢を強く感じた。

問 私たち清風クラブもこれまで指定管理者制度が導入された佐賀県武雄市立図書館、また昨年7月には北九州市のPark-PFIによる都市公園の開発を視察してきた。そういった際に必ず耳にするのはトップ、市長による力強いセールスの存在であった。この点についての見解を伺う。

市長 本市は、全国に先駆けてPark-PFI制度の活用を可能とする条例改正に取り組むなど、早い時期からPark-PFI制度を利用して市民の負担ができるだけ少なく、かつ魅力的な公園とすることを私自身が情報発信をしてきた。また、全国的に知名度のある湘南の海岸エリアにおける公園整備であること、また、機会を捉えて本事業に関してコメントするなど、その周知に努めてきた。これらのことから、関連事業者の関心は高く、応募に関して複数のグループから問い合わせをもらっている状況である。今後も多くの手段・機会を通して情報発信し、本事業を広く周知するよう努めていく。

一問一答による再質問

問 今回のこの龍城ヶ丘ゾーン整備、事業の名前も公園の整備であるが、なかなか公園整備というイメージが前にいかずに、便益施設の整備が前にいってしまっている。一社でも多くの事業者に手を挙げてもらうことが大事なところではないかと思うが、どのように動いているのか伺う。

市長 Park-PFIの提案制度を使うことによって市民の血税を、できるだけ負担を少なくしながら魅力あるものをつくっていききたい、安心・安全も含めて作っていききたい、そういう思いでこの制度に手を挙げた。これを最初に手を挙げたときから日本で最初のPark-PFIの制度として公園整備をしていくということをいろいろなところで発信をしてきた。市民の提案も含めて申し込みをしてもらえるような事業者が複数いると報告を受けている。



2019年8月25日、龍城ヶ丘ゾーンCエリア内の様子（佐藤貴子撮影）

9月9日の台風15号、10月12日の台風19号、どちらも記憶に残る災害をもたらしました。台風が到達する前にできることの確認、また、ご自分の地域での避難場所の確認。他自治体で被災された方々の経験が無駄にしない「自分対策」を是非、ご確認ください。

市内10カ所に設置された土のうステーションについては、平塚市下水道整備課へお問い合わせください。

直通電話：0463-21-8787（計画担当）・21-9854（整備担当）・21-9853（維持管理担当）

ファクス番号：0463-21-9605



